

(別添3)

【和泉市】
校務DX計画

校務の情報化を進めることにより、業務の効率化と質の向上をめざして、平成9年度より教員への研修を目的としてコンピュータ教室を整備し、平成21年度に校務用パソコンを教員1人1台(1,024台)配備しました。加えて、平成28年度より教務用としてタブレットにできる2IN1型ノートパソコンを配備するとともに校務支援システムを導入、また、令和4年度にはデジタル採点システムを導入しました。令和5年8月の「文部科学大臣メッセージ ～子供たちのための学校の働き方改革 できることを直ちに、一緒に～」で示されたように、教職員の働き方改革は喫緊の課題であります。国・学校・教育委員会が連携しつつ、それぞれの立場において、教員が教員でなければできないことに全力投球できる環境を整備することが重要です。そのための取組みの1つとして、文部科学省が作成している「全国の学校における働き方改革事例集」に掲載されているような「ICTを活用した校務効率化」は大きな役割を果たすものです。そのため、令和5年度の校務支援システム更新にあたっては、これまでの境界分離型からゼロトラスト環境へ移行し、校務PCから各種クラウドサービスを利用可能とするとともに、校務支援システムとデジタル欠席連絡ツールの連携や勤怠管理システムの導入などの環境整備を行い、業務の効率化と質の向上をめざした教職員の働き方改革の推進を図っています。今後も校務の情報化を推進し、継続して業務の効率化と質の向上を図っていくことが求められています。

【現状と課題】

令和4年度より、中学校及び義務教育学校へデジタル採点システムを導入したことにより、定期テストの採点時間が大きく削減されるとともに、テスト結果から判明した生徒の弱点補強にも活用されています。さらに、令和5年8月に校務支援システムの更新を実施し、これまでの校務系と学習系ネットワークのシステムが1台の校務PCで操作できるようになるとともに、これまで課題であった校務PCからの各種クラウドサービスの利用が可能となりました。また、校内ネットワークのWi-Fi化を実施し、AP(アクセスポイント)が設置されている場所であれば、校内のどこでも校務PCを操作できるだけでなく、他の市立学校や市教育センター等での研修の際にも、校務PCを持参して各種クラウドサービスに接続可能となり、職員室以外でもペーパーレス会議が実施可能になる等の業務の効率化を進めることができるようになりました。そのほかにも、社会のDX化の進展に伴い、保護者等のスマートフォンから欠席連絡等が可能なデジタル連絡ツールを導入するとともに、デジタル連絡ツールと校務支援システムとの連携や勤怠管理システムの導入などの環境整備を行いました。

【今後の方向性】

令和5年8月に実施した校務支援システムの更新により、ゼロトラスト環境へ移行しましたが、対応する実用的な製品が登場していないため、完全なゼロトラスト環境の実現までには至っていません。今後、対応する製品が登場するなどの条件が整い次第、完全なゼロトラスト環境を実現し、業務の一層の効率化を図っていきます。また、令和5年3月にGIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層

の高度化を目指して～」にて方向性が示されたように、今後は汎用的なクラウドツールを積極的に活用することにより、業務の効率化やコミュニケーションの迅速化等を可能としつつ、場所を選ばずに校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、教職員1人ひとりの事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方が可能となるような拡張性の高いシステムへと進化させていくとともに、学校経営・学級経営・学習指導等の質の向上をめざして、各種データを統合的に可視化したダッシュボードの構築を進めます。その際、汎用的なクラウドツールを十分に活用するため、外字の廃止を検討していきます。また、生成AIをはじめとした先端技術について、校務への活用を積極的に図ることにより、業務の効率化をより一層進め、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上をめざします。